

## 令和2年度 幼保小連携推進地区実践記録

テーマ

### 「子ども一人ひとりの成長と学びの つながりを考える」

横浜市立茅ヶ崎小学校  
横浜市茅ヶ崎保育園

### 今年度の活動①

- 7月上旬  
小学校と保育園が接している茅ヶ崎公園で、偶然出会うということを計画したが、雨天で2度延期。
- 8月下旬  
再度茅ヶ崎公園で出会う計画を立てたが、コロナ対策と残暑で園児が公園に出られないとのことで中止。
- 10月2日（金）  
生活「あきみつけ つうがくろたんけん」で、茅ヶ崎保育園前を通る経路で1年生が園に出向いた。ちょうど次の日の運動会練習を園庭で行っていたので、「明日の運動会、頑張っ  
てね！」と声をかけたり、タッチの真似をしたりして、出会いの機会をもった。
- 2月上旬  
1年生が育てている花が咲き始めているので、「いつでも見に来ていいよ。」とお手紙を書き、保育園に届ける。

### テーマ設定の理由

- ▶ 茅ヶ崎小学校と茅ヶ崎保育園は、隣どうしに位置し、距離的には交流がしやすい。1年生と年長組の交流は、以前から行っている。公園で（偶然）出合って遊ぶという演出もあり、自然な交流ができていると思う。昨年度は、ソーラン節を通して、6年生と年長組、年中組の交流を行うこともでき、新しい触れ合いを始められたと思う。しかし、教職員どうしは、まだまだ顔の見える関係にはなっていない。もっと、大人同士の関係を深めるきっかけを作っていきたいと考えている。また、本校の教職員には、「幼稚園・保育園時代にこんなに育ってきている1年生」という視点が薄く、1年生を「これからどんどん教えていかなければならない」存在だと思い過ぎている感がある。そのような1年生像を払拭し、「こんなに育ってきている子ども達」を、さらにどう育てていけばよいかを考えるきっかけとしたい。

### 期待できること

- ▶ 教職員間の連携が深まる。
- ▶ 子ども一人ひとりの成長をみとる教職員の目を養うことができる。
- ▶ 子どもの成長の連続性を土台としたスタートカリキュラムの見直し。
- ▶ 園児に「学校への期待感」をもっと膨らませてもらえる。

### 今年度の活動②

- 12月22日（火）  
茅ヶ崎小学校と茅ヶ崎保育園の教職員が合同で研修を行った。  
テーマ「保育園から小学校へ ～子どもの育ちの連続性を知る～」  
講師 和泉短期大学 児童福祉科 准教授 松山 洋平先生
- 茅ヶ崎保育園より実践紹介  
「ドキュメンテーションを使った子どもの記録」
  - ・ 子どもたちの活動や園での出来事を写真と文とで残す。
  - ・ お迎えに来た保護者にそれを見てもらい、子どもたちの表情やつぶやきを感じてもらう。
- ドキュメンテーションの記録から園の様子、子どもたちの活動、年長となるまでの成長についてグループ協議を行う。
- 講師より助言をいただく。

## 成果と課題

- ▶ 今年度は、子どもどうしの直接的な交流は、あまり行うことができなかったが、教職員が、初めて顔をあわせて交流する機会をもてたことはよかった。
- ▶ 小学校では、1年生に入学してきた子どもたちを「小さい子」のようにとらえ、何でもやってあげなければいけない人のように見えてしまっているところがあると気づかされた。
- ▶ 保育園では、「年長さん」としてとても頼りにされ、活動をリードしている存在である。もっと子どもたちのもっている力を信じて、任せていく「スタートカリキュラム」にしていかななくてはならないことを再確認した。
- ▶ ドキュメンテーションという手法による記録をたくさん見せていただいたことで、子どもたちの表情やしぐさから、表現したいことがたくさんあることを感じ取ることができた。
- ▶ 来年度、茅ヶ崎保育園が民営化され、教職員も入れ替わるということから、顔の見える関係を構築し、子どもどうしの交流が継続されるようにしていきたい。
- ▶ そのうえで、子どもどうしが顔を合わせる機会が減ってしまった分を補うために、お互いができることは何かを考えていきたい。